

年間授業計画様式例

六本木高等学校令和5年度 教科地理歴史科目世界史A 年間授業計画

教科： 地理歴史 科目： 世界史A 単位数： 2単位

対象学年組： 第3年次～第6年次)

使用教科書： ( 新版世界史A 新訂版 )

使用教材： ( 授業者プリント ICT教材 )

	指導内容	科目世界史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4 月	オリエンテーション 世界史へのいざない	・1年間の学習内容を説明し、大まかな授業の流れを示す。生徒の世界史に関する学習状況等を把握するための簡単なアンケートを行い、今後の授業展開の参考とする。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
	古代 ・ 人類の誕生からグレートジャーニー ・ 文明の発達と国家の成立	・考古学的な観点から、人類(ホモサピエンス)の誕生から諸大陸への拡散について理解させる。 ・各地に文明や国家を成立させたことを理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	4

	指導内容	科目世界史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
5 月	古代 ・古代文明の成り立ちとその特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古代文明を題材に、その成り立ちと特徴について理解させる。</li> <li>・古代国家を維持するために開発された様々な文化について理解させる。</li> </ul>	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	4
	古代・中世 ○宗教の成り立ちとその特徴 ・ユダヤ教とキリスト教の成立 ・ローマ帝国とキリスト教との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界宗教について、それぞれの成立の過程や特徴について理解させる。</li> <li>・後のキリスト教やイスラム教の母体となったユダヤ教について理解させる。</li> <li>・キリスト教の成立について、ローマ帝国の存在を踏まえつつ理解させる。</li> </ul>	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	4
	古代・中世 ○宗教の成り立ちとその特徴 ・イスラム教の成立とイスラム帝国の成立 ・キリスト教圏とイスラム世界との対立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラム教について、その教義や、ムハンマドの作ったイスラム帝国とその拡大について理解させる。</li> <li>・キリスト教とイスラム教の対立について、十字軍や国土回復運動(レコンキスタ)などを題材に理解させる。</li> </ul>	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	4
	中世・近世 ○ルネサンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルネサンスについて、発生した背景を理解させるとともに、当時の芸術作品を鑑賞することで、その文化的な特徴を考察させる。</li> </ul>	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	4

	指導内容	科目世界史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
6 月	近世 ○宗教改革	・宗教改革について、プロテスタントの成立の過程とその特徴について理解させる。ルター派・カルヴァン派の教義の特徴を理解させ、その拡大と分布について地図を用いて理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
	前期中間考査		考査素点	2
	○大航海時代・大交易時代	・大航海時代・大交易時代について、発生した背景と進行の過程について理解させる。 ・冒険家のルートやエピソードなどを踏まえ、この時代が世界に与えた影響、すなわち世界の一体化が進んだことを考察させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
	○絶対王政の成立 ・スペインとオランダの独立 ・イングランド	・ヨーロッパにおける絶対王政の成立の過程について、国ごとに理解・整理させる。 ・スペインの絶対王政と、オランダの独立について、宗教的な背景を踏まえつつ理解させる。 ・イングランドの絶対王政の成立について理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2

	指導内容	科目世界史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
	○絶対王政の成立 ・フランス	・フランスの絶対王政の成立について理解させる。 ・ルイ14世の拡大政策がもたらした影響について、ヨーロッパ及び北アメリカなどの植民地戦争に発展したことを踏まえつつ理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
	○主権国家体制の成立 ・神聖ローマ皇帝 ・三十年戦争	・神聖ローマ帝国における三十年戦争について、その発生した背景と、戦争の進行によってその性格が変化したことについて理解させる。 ・三十年戦争の結果成立したウエストファリア体制について理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
7 月				

8月	指導内容	科目世界史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数

	指導内容	科目世界史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9 月	ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動 アメリカ独立革命・フランス革命①	・アメリカ独立革命・フランス革命アメリカとフランスで起こった2つの革命について、アメリカの建国の経緯と独立宣言、フランス革命と人権宣言が現在にどのような影響を与えたのかを理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
	前期期末考査		考査素点	2
	ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動 アメリカ独立革命・フランス革命②	・アメリカ独立革命・フランス革命アメリカとフランスで起こった2つの革命について、アメリカの建国の経緯と独立宣言、フランス革命と人権宣言が現在にどのような影響を与えたのかを理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2

	指導内容	科目世界史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
10	ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動 ナポレオンとウィーン体制①	・ナポレオンとウィーン体制 ナポレオンの登場によるフランスの政治体制の変遷と、彼のヨーロッパ遠征が周辺諸国及ぼした影響を理解させ、ウィーン体制成立までの過程を考察させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
	ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動	・19世紀後半のヨーロッパ① 19世紀後半のヨーロッパの国々について、イギリス・フランス・イタリア・ドイツ・ロシアの歴史を題材に、国家としてどのようにまとまっていったのかを理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
10 月				

	指導内容	科目世界史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
11 月	ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動 19世紀のアメリカ合衆国	・19世紀のなかごろに、アメリカ合衆国が国土を拡大し太平洋に至る大陸国家になっていく過程を把握させ、その中で南北の対立が激しくなり南北戦争に発展したことを理解させる。奴隷解放宣言やジム＝クロウ制度などを題材に人権問題について考察させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
	ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動 アジアの変動①	・19世紀のアジア諸地域について取り扱う。オスマン帝国の改革や、アラビア半島、エジプトの変容について理解させる。スエズ運河などを題材に、ヨーロッパ列強との関連性について考察させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
	ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動 アジアの変動②	・19世紀のアジア諸地域について取り扱う。インドや東南アジアの変革を、ヨーロッパ列強の進出と関連付けながら理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
	ヨーロッパ・アメリカの諸革命と世界の変動 アジアの変動③	・アヘン戦争をきっかけとした、洋務運動などを代表とする清の改革と、日本の開国をきっかけとした、明治維新につながる一連の改革とを、比較しながら理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2



	指導内容	科目世界史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
12 月	後期中間考査		考査素点	2
	現代世界のあゆみ 帝国主義	・帝国主義とはどのような動きであるかを理解させ、その背景について考察させる。また、帝国主義が活発になった結果、アフリカやアジアがどのように分割されていったかその経緯を理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
	現代世界のあゆみ ヨーロッパ国際関係の緊張	・ビスマルク体制とその崩壊について理解させる。なぜバルカン半島が「ヨーロッパの火薬庫」と飛ばれるようになったか、その要因について、東方問題、建艦競争、バルカン戦争を題材に、多角的多面的に理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
	現代世界のあゆみ 第一次世界大戦	・サラエボ事件をきっかけに、第一次世界大戦が勃発したことを理解させる。第一次世界大戦が史上初の総力戦に発展したことについて、諸資料を用いて多角的多面的に理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2

	指導内容	科目世界史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
1 月	現代世界のあゆみ ロシア革命	・社会主義革命について、その思想的な背景について基礎・基本的な部分をおさえさ えると共に、レーニンの唱えた主義主張について理解させる。ロシアが世界初の社 会主義国家になったことについて、周辺国家(資本主義列強)が干渉戦争を行ったこ との理由について考察させる。	出席状況及び授業態度・アン ケート・プリント等の提出物	2
	現代世界のあゆみ ヴェルサイユ体制と国際連盟	・パリ講和会議が行われ、その結果ヴェルサイユ体制が完成した経緯について理解 させる。ウィルソンの主張に対して、会議に参加した国がどのような考えを持ったか ということについて諸資料をもとに考察させる。	出席状況及び授業態度・アン ケート・プリント等の提出物	2
	現代世界のあゆみ 戦間期の欧米と日本	・戦間期のヨーロッパについて、賠償金の支払いをめぐるルール占領が行われたこと や、ドイツの経済が著しく混乱したこと、アメリカ合衆国の借款によりヨーロッパの戦後 復興が進んだことを理解させる。また日本が国際的な立場を向上させていったことを 理解させる。	出席状況及び授業態度・アン ケート・プリント等の提出物	2
	現代世界のあゆみ 世界恐慌とニューディール	・世界恐慌のメカニズムについて理解させ、諸資料をもとに各国の状況を把握させ る。恐慌から脱するために、アメリカ合衆国でニューディールが行われたこと、また各 ブロック経済圏が形成され、このことがヴェルサイユ体制を揺るがすことになったこと を、知識を活用させつつ理解させる。	出席状況及び授業態度・アン ケート・プリント等の提出物	2

指導内容	科目世界史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
現代世界のあゆみ ファシズムの台頭	・恐慌を背景にファシズム政権が台頭したことを理解させる。また、ドイツ・イタリア・日本がそれぞれどのような行動を起こしたかを諸資料をもとに理解させ、なぜ国際社会がこれらの行動を阻止できなかったのかを考察させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
第二次世界大戦後の世界 アジア諸国の独立・多極化する世界	・朝鮮戦争やベトナム戦争などを取り扱う。これらの戦争が、冷戦下の代理戦争の性格を持っていたことを理解させる。またアジアやアフリカなどの第三勢力が結集し、独立などを果たしていくことを理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2
後期期末考査		考査素点	2
第二次世界大戦後の世界 冷戦の終結	・1950年代の平和共存外交や、60年代のベルリンの壁やキューバ危機など、冷戦体制の変容について把握させる。またEUの発足に至るまでの、ヨーロッパ統合の道のりについて理解させる。80年代に社会主義体制にが崩壊し、冷戦が終結したことを理解させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2

2  
月

	指導内容	科目世界史Aの具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
3 月	第二次世界大戦後の世界 1年間のまとめ	・これまでの学習のまとめとして、直近の国際的な出来事・問題などを取り上げ、その歴史的背景がどのようなものであるかを考察させる。	出席状況及び授業態度・アンケート・プリント等の提出物	2